



地域支えあいニュース

第22号 平成30年8月

綾瀬市生活支援体制整備事業プロジェクトチーム

(事務局:綾瀬市社協 地域福祉班) 電話:0467-77-8166 ファックス 0467-79-1812

E-mail info@ayase-shakyo.or.jp

ささえあい井戸端会議 早川 発足!

市内8番目となる「ささえあい井戸端会議 早川」が8月17日(金)早川自治会にて発足しました。

自治会、地区社協からは会長ほか役員の方々、民生委員、老人クラブ、一般の住民の方を含め10名の住民の方々が参加し、座長には、早川地区社協副会長の我妻武男さんが選出されました。

発足式にて出た意見

- この井戸端会議の存在を広くPRする必要がある。→次回の自治会広報にて報告
- 必要に応じて参加メンバーを増やしていこう
- 今まで接点がなかった団体や住民との交流の機会が増えることを期待する。
- 西日本豪雨災害が起り、目久尻川が縦に流れる地域であるがゆえに災害時の対策をしっかりと行っていく必要があると感じた。
- ハザードマップの理解が必要→危機管理課をゲストに呼んだらどうか?
- ひとり暮らしの方など、支援を必要とする人がどこにいて、どのような支援を受けているかを把握する必要がある。→マップなど可視化していくことの必要性を感じる。
- 災害時は情報の伝達が重要になる→個別受信機普及率45%に驚いた。→市はチラシを作っておらず、積極的に広めていく気はないようだ。
- 生活していくうえでの疑問を気軽に言い合える場になると良い。
- ひとりでも多くの人が行動していける地域を作っていきたい。



冒頭挨拶をする地域包括ケア推進課石原課長



拍手をもって発足を確認

- 先々井戸端会議で課題となったことの解決方法が形になっていけば良い。
- 女性をもっと増えると良い。
- 綾瀬西高校との連携をもっと強化していきたい。→現在、自治会に授業参観、体育祭、文化祭などに対して招待がある。
- 自治会は行事に追われている。地域内のコミュニケーションを図るのが自治会の目的であるが、忙しくて取り組めていない。本当はもっとコミュニケーションを図るための事業を展開していかなければならない。
- 高齢者が増えた。支援が必要だと思えば声をかけると「私はまだいい」と断られる。

焦らずに、まずは早川地域における様々な情報を収集、共有し、そこから派生した課題で、取り組むべきものを抽出して、その課題解決のための話し合いを重ねていく。

そして自分たちができる活動を掘り下げて、実行に移していくことを確認しました。